

生活クラブ千葉グループが2年前からすすめてきたユニバーサル就労システムが完成し、それをすすめる団体を支援する中間支援団体「ユニバーサル就労ネットワークちば」の設立総会が1月14日に行われました。

連合会も運営委員として関わっていますが、広く一般にUW（ユニバーサル就労）をすすめる団体を募っています。内閣府政策統括官の村木厚子さんの基調講演は会場に入り切れないほどの盛況でした。ご自身が初めて支えられる体験をした時の話を交えて、わかりやすくとても惹きつけられる講演でした。



その中でユニバーサル就労

ネットワークの価値を7つあげられました。

- ①「会社ではたらく」を目標にしたこと
- ②ユニバーサルという必要な支援を作ろうという姿勢
- ③ネットワークが多いこと
- ④共生社会のマインドがある生協や社会福祉法人が取り組み、一般の会社に広げていこうとすること
- ⑤福祉やサービス産業など生活関連の場でつくること
- ⑥対象がユニバーサル、タイプが違う人が集まっていること
- ⑦働き方のレベルがあること

講演後のパネルディスカッションでは県の障がい福祉課の課長も加わって中身の濃い話を聞くことができました。まずは実践して制度を作る、という先駆的な取り組みに大いに希望もてる一日でした。私たちW.Coもさらにユニバーサル就労を進めていきたいと思っています。

ワーカーズコレクティブ千葉県連合会副会長 中村早和子

わくわくwork ちば

NPOワーカーズコレクティブ千葉県連合会

No. **95**
2012. 3

ワーカーズ・コレクティブ (W.Co) とは…

同じ目的を持った仲間が作り出す、地域に有用な事業/出資・労働・経営を全員で担う/働くことを通し、社会的・経済的・精神的自立をめざす



(企)ワーカーズ・コレクティブ まどれーぬ 渡嘉敷 寿子さん 365日の食事作りにチャレンジ

昨年8月に、社会福祉法人生活クラブが運営する「生活クラブ風の村いなげ」の厨房業務を始めた「まどれーぬ」の代表をされています。毎日3食と3時のおやつを作っているそうです。利用者の方から「おいしい」と言われると、疲れも吹っ飛びますね。メンバー12名で50代から70代の方が元気に活躍しています。皆さんパワフルです!!

働き始めたきっかけは

千葉市稲毛区園生にデポアができることを聞き、生活クラブの新しい拠点作りに是非、参加したいと思い、組合員の拡大に1年間、関わってきました。ワーカーズ設立準備会を立ち上げ、何度も話し合いを重ねてきました。生活クラブの組合員活動で福祉のことに関わることが多かったことと、料理が得意でしたので、「風の村いなげ」の厨房ワーカーズを目指すことにしました。365日3食の食事作りと生活クラブ風の村での挑戦は未知のことで、自分の中で請け負う覚悟ができるまで、時間がかかりました。しかし、こんなチャンスに恵まれることは二度とないと思い、新しいことにチャレンジすることに決めました。

始めてみて大変だったこと

毎日、平均ですが、朝食30食、昼食70食とおやつ40食、夕食35食を作っています。献立を考えて、レシピを作るのが一番大変です。旬の素材・野菜を中心に使うことを重視し、一汁三品、バランスよく献立をたてています。しかも、おしゃれに彩りも考え、衛生面には特に気を付けて作っています。普通食を食べられない利用者さんのためにペースト食(マヨネーズ位の硬さ)を作っていますが、一品ずつミキサーにかけますので、配膳の時間に遅れることもしばしばあり、苦戦しています。

生活クラブ風の村いなげ

介護保険・高齢者住宅・相談・障がい者支援・保育事業などのサービスを提供しています。3階の建物の1階部分は診療所、訪問看護事業、児童デイサービス、居宅介護支援事業、訪問介護事業、デイサービス、2階はショートステイ、3階は高齢者専用賃貸住宅。

味付けやカロリー計算も、家庭料理とは勝手が違って難しかった、と渡嘉敷さん



昼食の後片付け。同時進行で調理担当がおやつも準備中



今後の夢・課題

事業を始めてまだ8か月ですので、毎日の業務をこなすことで精一杯ですが、新しい事業展開ができれば…。普通の配食サービスは昼食に1食だけですが、まどれーぬの特色を生かして、1日3食の配食サービスや、自宅に食事を作りに行くサービスを考えています。また、風の村全体で生活クラブの消費材をもっと使ってもらい、美味しく安全な食事を作って行くことを目指します。

出身地 北海道。結婚してから東京に住み、その後千葉へ
趣味 スポーツ(水泳・ジョギング) 料理
家族 今は夫と二人暮らしです(娘2人)

(インタビュー 広報部)

リーダー研修 2/29

テキストにある「困った会議のパターン」に当てはまる内容が多かったと感じた当事業所ですが、会議の在り方を見直す良い機会になりました。月1回2、3時間という限られた中での会議は話し合う内容が多岐にわたっており、時間ばかりが過ぎていき、決定事項が実行されないこともしばしばあるといった具合で、反省する点が多々あります。今後は研修の内容を参考に前準備をし、必要ならば事前ミーティングを行うなど、今までと違ったやり方も試みたいと思いました。またメンバーのモチベーションを上げられるとより有意義な会議になるのではないかと思います。

ハーブ 長谷川利恵

アレルギー表示の必要性の学習会 (コンタミネーションについて)

食部会では、惣菜出荷時のアレルギー表示の中で、原料そのものではなく、製造工程で混入が考えられる可能性についての知識が少ないので、それについて生活クラブ虹の街業務部の職員を講師に、学習会を開催しました。食品衛生法では25品目のアレルギー表示が決められていますが、アレルギーは少量のアレルギー物質で起こる可能性があるため、年に一度でも製造工程で使っているものは、詳細情報に登録する必要があります。今後も学習を続けて安全な惣菜を提供できるように努力をしていきたいと考えています。

食部会 西村憲子



運営委員会報告

- ★ 旭愛農鶏卵取組再開を決定
- ★ 法制化P J 中間答申を受理
- ★ 地域福祉計画報告会参加
- ★ ユニバーサル就労ネットワークちばへの運営委員選出
- ★ 千葉のWA地域づくり基金へ寄付
- ★ 全国会議「共に作り食へ続ける」冊子30冊を広報活動に活用

くれよん 田中ゆう子

イタリア映画「人生、ここにあり！」特別上映会 2/18 —「人間らしく生きるため」の究極の選択としての協同組合

協同労働の協同組合ネットワークちば主催の2012国際協同組合年事業、映画「人生、ここにあり！」特別上映会が、習志野市市民会館で開催されました。

イタリアで精神障害を持つ人々が、さまざまな困難を抱えながら協同組合を立ち上げた実話に基づき、共に働くことの素晴らしさやその価値について描いたこの映画を上映することで、協同組合への関心を多くの人に持ってほしい、という趣旨によるものです。

映画は、法律により精神病院が閉鎖され外へ出された患者たちの協同組合へ、

労働組合の熱血指導者が入り込むという(日本では想像できない)状況から始まります。ここでは協同組合は、登場人物たちが社会に出て人間らしく生きるために利用できる唯一の手段であり、それに縛られて生きる枠組みではなく、自分たちのために作り上げていくものだというのがストレートに伝わってきます。自由奔放な患者たちのドタバタ騒動や天才発奮ぶりに笑いが止まらない中で、「人間らしく生きたい」というメッセージが強く響いてくる映画でした。

